

## 第 8 回尖石縄文文化賞

受賞者：藤田富士夫

尖石縄文文化賞条例にもとづく、同賞の選考委員会は、柳平千代一茅野市長の諮問を受け、委員 5 名の出席の下に、8 月 31 日、尖石縄文考古館で行われた。

今回、選考・審査の対象となったのは、個人・団体延べ 16 件であった。候補者の内訳は、40 歳代から 70 歳代におよび、研究者としての所属機関や、その研究歴など多彩で、また寄せられた「受賞の対象となる研究及び活動の業績」についても、宮坂英弑が尖石遺跡の発掘や研究をつうじてめざした、縄文時代の歴史の本質に迫る、すぐれた研究と活動を示すものであった。このことは、本年第 8 回目を迎えた本賞の趣旨が、広く学界等一般に周知された結果として、誠に喜ばしいことである。

こうしたすぐれた候補者を得て、選考委員会では慎重な審議の結果、第 8 回尖石縄文文化賞の受賞者として、藤田富士夫氏（富山県）を、全会一致で推薦することに決定した。

同氏は富山市埋蔵文化財センター所長として、埋蔵文化財調査に従事する傍ら、「玦（けつ）状耳飾」をはじめとする縄文時代の玉器文化と環日本海文化について先駆的な業績を上げている。その成果は『玉』『古代の日本海文化』『縄文再発見－日本海文化の原像』などの刊行や、公開シンポジウム「環日本海の玉文化の始源と展開」によって、一般市民にも広く縄文文化の理解と普及に大きく貢献している。

同氏の研究は、縄文人の行動や社会生活を明らかにしようとした宮坂英弑の研究を継承・発展させたものであり、茅野市が本賞を制定した意義にそった、まことにふさわしい受賞者である。

2007 年 8 月 31 日

宮坂英弑記念尖石縄文文化賞選考委員会

委員長 戸沢充則



第 8 回受賞者 藤田富士夫 氏